

モニターから・編集室から

今期のモニターは、教職員二十五名、学生十三名、学外の有識者九名の四十七名に委嘱した。各広報委員から推薦の固定モニター制となつてゐる。二号の回収率は五二%、三号の回収率は二七%となつてゐる。三号の回収率が低いのは、依頼してまもないためだと思われる。

☆今号の本誌に関する印象

学生 「サークル活動の座談会で、安藤さんが『今のステップから一歩一歩上がつて、自分を見たときに満足し、価値観を確立する』の言葉に感動した。」

「随筆風の小品が文学的で、ほつと教職員 いう意見のほか、「学生にもたくさん読んでほしいなら、もつともつと学生からの意見や役立つ記事が多く、興味を持つて読んだ」と声を」という意見や、「座談会がいまいちおもしろさに欠ける。登場人物が多すぎて話の内容がバラバラしすぎる」という否定的意見もあつた。

「随筆風の小品が文学的で、ほつとさせる。座談会はそれ 자체よいが、サーケルに入れぬ学生も多い。裏面的なところにもスボットを」「表紙が美しく、カットや写真のレイアウトがあか抜けている」「表紙が印象的」「全体にバランスよくまとまっていた」という意見のほか、「座談会はまとまりがなく、原稿を起こす時点で短くまとめることができたときには違和感」、座談会12ページの全面写真は何か。11ページから16ページの出席者が省略があるべき。論点を絞らないといへん読みにくい感がある」「表紙、裏表紙を広げて見たときに違和感」、座談会12ページの全面

学生の無関心、無意欲は講座側、教える側の関心、意欲に正比例する。先鞭はつけられてゐる。

地域社会や学会につながり、結果的には力ぢの質的向上を呼び、社会に貢献するはず。さらに学者として専門学会に止まらず、世間に通じる文章を書くという意味でも、大いにこの欄を奨励して欲しい。今回の「儒教社会と母性」など、素人の僕でも読んでみたいと思つた。

☆改善点

相変わらず文章が堅いという意見があつたが、そのほかに「医学部動物実験施設など、現在でも多くの問題を抱えているにもかかわらず、「きれいごと」だけの紹介に終始していて、実態の紹介となっていない」、「学長イントンタビューやは毎号なくても良い。はつきり言つて飽きました」、「グラビアの写真はインパクトがあり良かったが、説明が少なすぎはしないためか。ニュースダイジェストにある関連記事などを持つてくるとか、移転完了後、跡地問題とのからみでどういう扱いを受けるのか補足が欲しかつた」など、厳しい意見が寄せられた。最後に、学外モニターからの意見を掲載す。

「追悼」の欄は大きすぎはしないだろうか。べた記事で精英、経歴を交えて十数行のものと思う。今回の松本厚名督教授を例にとつても、退職されて三十年あまり。但見嘉信館務長補佐は在職死亡ですが、この追悼文はちょっと大袈裟。

『学長インタビュー』は必ず読む。そこで注文。一回一ページのスペースしか充てられないでのテーマを絞つて欲しい。今回で言うと、大きく重要なテーマが二つもある。『財団法人広島大学後援会』と『新教養的教育』である。これは、それぞれ一回、あるいはそ

編集室から

が…。学長は「広島大学は学部の集合ではなく、一つの大学という意識だ。これなくして本学の発展はない」と学長インタビューに述

れぞれをさらに、上、下などに分けてでも、細かく学長の意見を引き出したい。技術的には、単に【一問一答】の型どおりのインタビューに止めず、問題を掘り下げるために、質問の二の矢、三の矢を放つて「根掘り葉掘り」の質問責めにして欲しい。

というのも、今回の学長の答えに『：教育改革が進めば、広島大学は日本一の大学になるはずだ』などというアバウトで、およそ実態のない言葉を聞き捨てるべきではないからである。広大の学生がこの言葉をどのように読んだろうか。

『広大フォーラム』の守備範囲について。

例えば、あまり名譽でないこと、さらに一步進んで不祥事など、都合のよくないことをどう扱うか。例えば、六、七月に新聞に報じられた歯学部の講座教授の選任をめぐるタガタガタである。世間の人気が知っているのに学内では頗るむりするのでは、もはや通らない。責任ある立場の人（学長や学部長）が迅速に情報を探し、問題点を明らかにして全学の理解を得るべきだと僕は思う。それはちつとも不名誉なことでもないし、むしろ将来の『開

レイアウトや文字づかいなど表現上の要望もたくさんありました。今日は本誌がどのように読まれているかについてお答えしたいと思います。その前に経費のことに関する質問がありましたので、その点から回答したいと思います。

「フォトエッセイ」

写真やレイアウトに関して多くの意見が寄せられた。「一ページ全体を一枚の個人の写真だけで使用しているが、記事にそれほど必要でもない。大事な紙面を無駄にしている。これまでも感じていたが、とても無駄が多い冊子。ページ数を減らすなり号数を減らすなどして予算の有効利用を」（教職員）、「きれいでもない写真をでかでかと載せるのは公金の無駄遣い。その割に、亡くなられた先生の追悼文など半ページしかなく不謹慎」（教職員）、「フォトエッセーや大学シリーズの写真がだ

学外 「全般的に読みやすくて好感がもてるが、もう一つ、焦点となるものがはつきりしない憾みがある」、「座談会の企画はよかつた。時期的にはもう少し早くてもいいのかもしれないが。「サークルが見せる魅力」「サークル活動で何を得たか」など、永遠のテーマであり、「そこが聞きたい」ところもある。

締め括りに「堅い話ばかり」になったとあるが、大型座談会とは言え、出席者が多すぎるとどうしても表面的になり、本音の部分に迫りにくいし、参加者の顔が見えにくくなる。精々四、五人が限度だと経験的に思う。

『自著を語る』が楽しい。「あなたもインターネットを使ってみませんか』の記事は楽しい勧誘と解説だった。小学生にパソコンの授業がある時代に、遅れているのは大学生かもしれない」。

マや出席者によほどの興味がない限り読むのがつらい。少々安易な企画」、「文章が窮屈で読みづらい」、「全体的に内容が固い。少しはくつろげるコラムが有つてもよいのでは。目次のカットとフォトエッセーの美しい写真にほつとする。今号のみならず「こうあるべきだ」、「こうあらねばならない」といった、学生・教職員を煽り気味な記事が全体を占めて

☆今号の本誌に関する印象

「主たる対象をどのあたりに置いているのか
知らないが、学生の興味を引く記事をもう少し
増やしてもらいたい」（学生）、「記事の詰
め込み過ぎではないか」（教職員）、「図書館
サービスの記事は、もう少し図表でイメージ
を示した方がインパクトも強いし、わかりや
すいと思った。ビジュアル化できないだろう
か」（教職員）、「表紙が夏にしては暗い感じ
もつと夏らしい涼しい表紙に」（学生）、「も
うと、美術、音楽などについての記事を」
（学生）、「近年、カラー豪華版になつてから
首を傾げたくなる内容を見ることが多くなつ
た。今後の改善を」（教職員）、「学長インタ
ビューの記事が同誌の初めを飾つてるのは
権威的で見苦しい。文学的な巻頭言、隨筆が
初めにほしい」という意見が寄せられた。

会の写真の「斜め扱い」。これは避けられることを勧める。安っぽくなる。それより、プロファイルに付く個人写真を、表情のあるアツブ写真にすることを優先して考えてみるのも手ではないか（学外）などの意見のほか、

学生 「最近、黒系の色の表紙が多いのはそれで、洗練されたイメージがあり、だが、今回のはあまりにも「オブジェが少なすぎ、また、黒地に題字が赤でパクトが少ない(ぱつとしない)」「**『教養的教育の新しい試み』**であつたた

「主たる対象をどのあたりに置いているのか知らないが、学生の興味を引く記事をもう少し図表でイメージし増やしてもらいたい」（学生）「記事の詰め込み過ぎではないか」（教職員）、「図書館サービスの記事は、もう少し図表でイメージを示した方がインパクトも強いし、わかりやすいと思った。ビジュアル化できないだらうか」（教職員）、「表紙が夏にしては暗い感じもつと夏らしい涼しい表紙に」（学生）、「もと、美術、音楽などについての記事を」（学生）、「近年、カラー豪華版になつてから首を傾げたくなる内容を見ることが多いなつた。今後の改善を」（教職員）、「学長インタビュー」の記事が同誌の初めを飾っているのは権威的で見苦しい。文学的な巻頭言、随筆が最初にほしい」という意見が寄せられた。

☆その他、広報委員会への要望・質問

「（二号）の編集後記の『先輩たちが墮落していく』云々は不穏な発言ではあるまいか」（教職員）、「ページの番号は一つの方が多いと思います。（）しているとはいえ、ページが二つ書いてあるのは、あまりメリツトがないように思います」（学生）などの意見が寄せられた。

会の写真の「斜め扱い」。これは避けられることを勧める。安っぽくなる。それより、プロファイルに付く個人写真を、表情のあるアツブ写真にすることを優先して考えてみるのも手ではないか（学外）などの意見のほか、

「主たる対象をどのあたりに置いているのか知らないが、学生の興味を引く記事をもう少し増やしてもらいたい」（学生）「記事の詰め込み過ぎではないか」（教職員）、「図書館サービスの記事は、もう少し図表でイメージを示した方がインパクトも強いし、わかりやすいと思った。ビジュアル化できないだろか」（教職員）、「表紙が夏にしては暗い感じもつと夏らしい涼しい表紙に」（学生）、「もつと、美術、音楽などについての記事を」（学生）、「近年、カラー豪華版になつてから、首を傾げたくなる内容を見ることが多いなつた。今後の改善を」（教職員）、「学長インタビューの記事が同誌の初めを飾っているのは権威的で見苦しい。文学的な巻頭言、隨筆が初めにほしい」という意見が寄せられた。

☆その他、広報委員会への要望・質問

「（二号の）編集後記の『先輩たちが堕落していく』云々は不穏な発言ではあるまいか」（教職員）、「ページの番号は一つの方が多いと思います。（一）しているとはいえ、ページが二つ書いてあるのは、あまりメリツ合がないように思います」（学生）などの意見が寄せられた。

会の写真の「斜め扱い」。これは避けられることを勧める。安っぽくなる。それより、プロファイルに付く個人写真を、表情のあるアツブ写真にすることを優先して考えてみるのも手ではないか（学外）などの意見のほか、



Photo: Kanameda, Keiji